

## はじめに

新学習指導要領は平成10年12月に告示され、小学校は平成14年度より全面実施されます。新学習指導要領の趣旨は、端的に言いますと、学校週5日制の実施、学習内容の削減によるゆとりのなかで子どもたちに基礎・基本を確実に身に付けさせると同時に、多くの知識を教え込む教育から「生きる力」を育てる教育、つまり自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる力を育てる教育への方向転換です。そのために体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、その一つの方策として週当たり3時間程度の総合的な学習の時間を設ける、ということであろうと思います。

本校では、そのような新学習指導要領の趣旨を踏まえて、昨年と一昨年の2年間、「教育課程の創造」を研究主題に掲げて、新しい時代にふさわしい本校独自の教育課程の編成に取り組んでまいりました。

本年度は、研究主題を「自己の学びを深める―ピースタウン curriculum の構想を通して―」として、構想した教育課程を実践しながら、先ず、子どもにとって真の「学び」とは何かを追求してきました。「学び」を、結果としての知識の獲得だけでなく、学び方や問題解決能力の獲得をも含むものとし、その「学び」の高まりを感じることが新たな行動を生む原動力となり、それがひいては「生きる力」を育むことにつながると考えました。

教科・道徳、総合学習、特別活動の三つの「学び」の場で目指すべき大切なことは、教科・道徳では本質に基づく基礎・基本を自ら身につけていくこと、総合学習では共に生きる社会や環境に自らはたらきかけること、特別活動では自分たちの学校生活を自ら豊かで楽しくしていくことであり、そうすることが自己の学びを深めることになると考えました。

総合学習については、当附属小学校では、平成7年度からその実践と研究に取り組み、目標、内容、領域設定などに少しずつ修正を加えながら現在に至っています。本校の総合学習の歩みについては、昨年11月に出版した『子どもと総合学習とのあい レシピ25』（明治図書）にも記しております。本年度は、単元の内容を改めたりあるいは新たに構想するなどして、各学年、三つの領域（環境、人間、文化）それぞれ2単元であったものを1単元にし、しかもその1単元を20時間程度にしました。それによって総合学習に割り当てられた年間総時間数のうち約20時間を余すことができ、この20時間を、子どもの求めに応じたり、追求を深めるための時間にしたりして、弾力的な運用ができる時間にしたいと考えております。

そのほか評価の在り方についても新たな検討を加えて、この一年間の研究の成果をこの紀要にまとめました。ご高覧いただき、忌憚のないご意見、ご批判を賜りたいと存じます。

末尾になりましたが、これまで本校の教育研究のために貴重なご指導、ご助言を賜りました金沢大学および関係機関の諸先生方に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成12年11月16日

金沢大学教育学部附属小学校  
校長 大塚 巖